

島千菜美（九大）、木村達人（東北大）、松浦健太（東北大）、池田 基（九大）、田口海志（東北大）、横山幸司（東北大）おめでとう。ポスター賞の授与式は年会懇親会冒頭、乾杯の前に行った（ただし、横山幸司氏は授与式を欠席された）。

最後に、ポスター発表、ポスター賞選考などにご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。ポスターセッションについてまだまだ改善すべき点が多々あるかと思えます。是非皆さんのご意見をいただきたいと思えます。また、ポスター賞選考には多くの選考委員の方がが必要です。他薦自薦問わず選考委員にご協力いただける方は井上までご連絡ください。

（昭和電工株式会社 井上 斉）



写真7 白石壮志 幹事長

次世代の会第2回定例会

第42回炭素材料学会年会の3日目、C会場にて、16:00~18:00の間、「次世代の会 第2回定例会」を開催した。3日目の夕方という悪条件にもかかわらず、約60名もの方々にご参集いただいた。第1回に引き続き、次世代の会の活動全般に関する説明や質疑を行った後に、2件の講演を実施した。

まず白石壮志幹事長（群馬大）よりご挨拶と定例会の趣旨が述べられ、つづいて西原洋知幹事（東北大）より2016年からの次世代の会の組織改編および活動計画の概要が説明された。2015年までは白石壮志幹事長をはじめ、後藤和馬幹事（岡山大）、宮脇 仁幹事（九大）、神成尚克幹事（群馬大）、西原洋知幹事の5名の幹事により次世代の会が運営されていたが、夏季セミナー実行委員（約26名）と別組織と定義していたため若手の力がやや分散してしまっていた。そこで2016年からは2015年の夏季セミナー実行委員（約26名）を次世代の会の幹事と定義し直し、夏季セミナー実行委員（約10名）は次世代の会幹事が委嘱する形に変更した。すなわち、次世代の会と夏季セミナーの一体化が実現する。また、幹事の中から常任幹事として、西原洋知幹事長（東北大）、後藤和馬副幹事長（岡山大）、入澤寿平副幹事長（名大）、藤森利彦副幹事長（信州大）の4名を設定し、実務を担当することが提案、承認された。本改革により、2016年からは夏季セミナーを含む若手の活動全般を次世代の会が強力に推進していける土壌が整った。新組織の概要や着任・離任などのルール、会則（内規）、2016年の活動内容などについては、次世代の会のウェブページを新設して随時更新する予定である。

つづいての講演会は、学会内外の気鋭の若手研究者という趣旨で2名の先生方に講演を依頼した。1件目は学会外から、金沢大学の生越友樹先生に「柱状環状ホスト分子“Pillar[n]arene”超



写真8 生越友樹 先生



写真9 藤森利彦 先生



写真10 次世代の会定例会の様子

分子集合体を基にしたカーボンポーラス材料の創製」と題する招待講演を実施していただいた。生越先生は高分子化学や超分子化学をご専門とされており、独自に開発された新規環状巨大分子“Pillar[n]arene”を軸にした研究を展開なさっている。環状分子の中でのPillar[n]areneの位置づけや合成方法、その特性や機能化に至るまで、分野外の参加者にもたいへんわかりやすく

解説をしていただいた。また最近の成果として、Pillar[6]areneの炭素化による多孔質炭素合成に関する話題も述べられ、その特異的な炭素化挙動に関して質疑の時間には大いに盛り上がった。つづいて2件目は学会内から、信州大学の藤森利彦先生に「古くて新しい一次元伝導体~カーボンナノチューブによる人工原子鎖の創製と機能開拓をめざして~」と題する依頼講演を実施していただいた。藤森先生は2015年の炭素材料学会研究奨励賞を受賞している学会のホープである。カーボンナノチューブの中に閉じ込められた1次元状の硫黄が金属として振る舞うという不思議な現象について、多くの分析結果を示しつつたいへん丁寧にご説明をいただいた。本来は超高压下でなければ形成しない1次元状の硫黄がカーボンナノチューブの擬高压効果により安定化される点は非常に興味深く、質疑の時間には多くの質問が寄せられた。以上のように、たいへん盛会となった。

(東北大学多元物質科学研究所 西原洋知)